

主な医薬品とその作用

問6 1

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしているかぜであっても、別の症状の発現予防のため総合感冒薬を選択することが基本である。
- b かぜ薬（総合感冒薬）は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去する作用を有する。
- c インフルエンザ（流行性感冒）は、ウイルスの呼吸器感染によるものであり、感染力は強く、また、重症化しやすい。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

問6 2

次のかぜ薬（総合感冒薬）の配合成分とその分類のうち、正しいものの組合せはどれか。

	配合成分	分類
a	カルビノキサミンマレイン酸塩	抗ヒスタミン成分
b	エチルシステイン塩酸塩	殺菌成分
c	コデインリン酸塩	去痰成分
d	イブプロフェン	解熱鎮痛成分

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

問63

グリチルリチン酸に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a グリチルリチン酸二カリウムの作用本体であるグリチルリチン酸を含む生薬には、カンゾウがある。
- b かぜ薬には解熱作用を目的として配合されている。
- c 大量に摂取すると偽アルドステロン症を生じるおそれがあり、むくみ、心臓病、腎臓病又は高血圧のある人や高齢者ではそのリスクが高い。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 |

問64

解熱鎮痛薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アスピリンは、ピリン系の解熱鎮痛成分で、他の解熱鎮痛成分に比べ胃腸障害を起こしやすく、ライ症候群の発生も示唆されている。
- b アセトアミノフェンは、中枢作用による解熱・鎮痛作用をもたらすほか、末梢における抗炎症作用が期待でき、内服薬のほか、小児の解熱に用いる坐薬がある。
- c カフェイン類は、解熱鎮痛成分の鎮痛作用を増強する効果を期待して、また、中枢神経系を刺激し、疲労感、倦怠感を和らげることなどを目的として配合されている場合がある。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

問65

眠気を促す薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として一時的な睡眠障害の緩和に用いられるだけでなく、慢性的な不眠症状がある人も対象としている。
- 2 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
- 3 ブロモバレリル尿素（ブロムワレリル尿素）は、少量でも眠気を催しやすく、それにより重大な事故を招くおそれがあるため、使用した後は、乗物や危険を伴う機械類の運転操作は避ける必要がある。
- 4 ブロモバレリル尿素（ブロムワレリル尿素）は、反復して使用すると依存を生じることが知られており、本成分が配合された医薬品は、本来の目的から逸脱した使用（乱用）がなされることがある。
- 5 飲酒とともにブロモバレリル尿素（ブロムワレリル尿素）を含む医薬品を服用すると、その薬効や副作用が増強されるおそれがあるため、服用時には飲酒を避ける必要がある。

問66

カフェインに関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 反復摂取により依存を形成するという性質がある。
- b 胃液分泌抑制作用があり、その結果、副作用として胃腸障害が現れることがある。
- c カフェインの血中濃度が最高血中濃度の半分に低減するのに要する時間は、通常の成人と比べ、乳児では非常に長い。
- d 妊娠期間中にカフェインを摂取しても、吸収されたカフェインは胎児に到達せず、また、授乳期間中にカフェインを摂取しても、吸収されたカフェインは乳汁中に移行しない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問67

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）とその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a スコポラミン臭化水素酸塩は、乗物酔い防止に古くから用いられている抗ヒスタミン成分である。
- b 乗物酔いの発現には不安や緊張などの心理的な要因による影響も大きく、それらを和らげることを目的として、鎮静成分が配合されている場合がある。
- c 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として、局所麻酔成分が配合されている場合がある。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 |

問68

小児の疳かん及び小児の疳かんを適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 小児では、特段身体的な問題がなく、基本的な欲求が満たされていても、夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状が現れることがある。
- b 配合される生薬成分は、いずれも古くから伝統的に用いられており、作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用がない。
- c 柴胡加竜骨牡蛎湯さいこかりゅうこつぼれいとうを小児の夜泣きかに用いる場合、1週間位服用しても症状の改善がみられないときには、さらに1週間位服用して様子を見ることが望ましい。
- d 一般用医薬品の漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合にあっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととなっている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問69

次の鎮咳去痰薬の配合成分とその主な作用のうち、正しいものの組合せはどれか。

	配合成分	主な作用
a	ノスカピン	延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える
b	トラネキサム酸	気道の炎症を和らげる
c	チペピジンヒベンズ酸塩	交感神経系を刺激して気管支を拡張させる
d	メトキシフェナミン塩酸塩	粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問70

鎮咳去痰薬の漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 半夏厚朴湯は、体力中等度をめやすとして、幅広く応用できる。気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳、しわがれ声、のどのつかえ感に適すとされる。
- b 麦門冬湯は、体力中等度以上で、咳が強くでるものの咳、気管支喘息、気管支炎、小児喘息、感冒、痔の痛みに用いられるが、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人等には不向きとされる。
- c 五虎湯は、体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は咽頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされるが、水様痰の多い人には不向きとされる。

a b c

- 1 正 誤 誤
 2 正 誤 正
 3 誤 正 正
 4 誤 正 誤
 5 誤 誤 誤

問7 1

口腔咽喉薬・含嗽薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 含嗽薬は、使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。
- b 口腔咽喉薬、含嗽薬は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるが、成分の一部が口腔や咽頭の粘膜から吸収されて全身的な影響を生じることがある。
- c 芳香による清涼感を目的として、セチルピリジニウム塩化物、デカリニウム塩化物が配合されている。
- d 咽頭の粘膜に付着したアレルギーによる喉の不快感等の症状を鎮めることを目的として、抗ヒスタミン成分が配合されている場合がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

問7 2

胃の薬の配合成分とその目的とする作用に関する組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	配合成分	目的とする作用
a	炭酸マグネシウム、ボレイ	制酸
b	センブリ、ケイヒ	健胃
c	ジアスターゼ、リパーゼ	胃液分泌抑制
d	スクラルファート、ゲファルナート	胃粘膜保護・修復

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

問73

腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 桂枝加芍薬湯けいし かしゃくやくとうは、体力中等度以下で腹部膨満感のある人のしぶり腹、腹痛、下痢、便秘に適すとされる。
- b 麻子仁丸ましにんがんは、体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なものの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎しん、ふきでもの（にきび）、食欲不振等の症状の緩和に適すとされる。
- c 大黄甘草湯だいおうかんぞうとうは、体力中等度以上で、下腹部痛があつて、便秘しがちなものの月経不順、月経痛、便秘、痔疾じに適すとされる。
- d 大黄牡丹皮湯だいおうぼたんびとうは、体力に関わらず広く応用され、便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎しん、ふきでもの（にきび）、食欲不振等の症状の緩和に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では不向きとされる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問74

腸の薬に配合される成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 腸内細菌のバランスを整えることを目的として、ビフィズス菌、乳酸菌等の生菌成分が用いられる。
- b 次硝酸ビスマスは、牛乳に含まれるタンパク質成分であるため、牛乳にアレルギーのある人では使用を避ける必要がある。
- c ゲンノショウコは、マメ科のエビスグサの地上部を基原とする生薬れんで、収斂作用のほか、抗菌作用、抗炎症作用も期待して用いられる。
- d 細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として、木クレオソートもくが用いられる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問75

胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 抗コリン成分は、胃痛、腹痛、さしこみ（疝痛、癢）を鎮めること（鎮痛鎮痙）のほか、胃酸過多や胸やけに対する効果も期待して用いられる。
- b ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が速くなる（頻脈）おそれがあるため、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- c パパベリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとともに、胃液分泌を抑える作用も示す。
- d 鎮痛鎮痙の効果を期待して局所麻酔成分が配合されることがあるが、痛みが感じにくくなることで重大な消化器疾患等を見過ごすおそれがあり、長期間にわたって漫然と使用することは避けることとされている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問76

駆虫薬に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すために併用する瀉下薬として、ヒマシ油を用いる。
- b 一般用医薬品の駆虫薬は、腸管内に生息する虫体に作用するが、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。
- c 一般用医薬品の駆虫薬は、一度に多く服用しても駆虫効果が高まることはなく、かえって副作用が現れやすくなるため、定められた1日の服用回数や服用期間を守って適正に使用されることが重要である。
- d 食事を摂って消化管内に内容物があるときに駆虫薬を使用すると、消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、一般用医薬品の駆虫薬では食後に使用することとされているものが多い。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問77

強心薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢^{のう}中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇作用があるとされる。
- b ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄^{じや}の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- c 苓桂朮甘湯^{りょうけいじゆつかんとう}は、強心作用が期待される生薬は含まれず、主に尿量増加（利尿）作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促すことを主眼とする。
- d リュウノウは、ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ又はクロチョウガイ等の外套膜^{とう}組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問78

コレステロール及び高コレステロール改善薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コレステロールは、細胞の構成成分で、胆汁酸や副腎皮質ホルモン等の生理活性物質の産生に重要な物質でもある等、生体に不可欠な物質である。
- b リノール酸は、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑えることを主な目的として配合される。
- c リボフラビンは、コレステロールの生合成抑制と排泄・異化促進作用、過酸化脂質分解作用を有すると言われている。
- d ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |

問79

貧血用薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 銅は、ヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持ち、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
- b コバルトは、糖質・脂質・タンパク質を代謝する際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- c 貧血を改善するため、ヘモグロビン産生に必要なビタミンB₆や、正常な赤血球の形成に働くビタミンB₁₂や葉酸などが配合されている場合がある。
- d 鉄製剤服用の前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が良くなる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問 8 0

循環器用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ユビデカレノン^キは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされ、軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸^き、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- b イノシトールヘキサニコチネートは、ニコチン酸を遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- c ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- d 七物降下湯^{しちもつこう かとう}は、体力中等度以上で、のぼせ気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状（のぼせ、肩こり、耳なり、頭重、不眠、不安）、鼻血、痔出血^じ、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 8 1

痔に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。
なお、2箇所の (a)、(b)、(c) 内にはどちらも同じ字句が入る。

痔の主な病態としては、(a)、(b)、(c) がある。

- (a) は、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって炎症・化膿を生じた状態である。
- (b) は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態である。
- (c) は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じた状態である。

	a	b	c
1	裂肛	痔瘻	痔核
2	裂肛	痔核	痔瘻
3	痔瘻	裂肛	痔核
4	痔瘻	痔核	裂肛
5	痔核	裂肛	痔瘻

問 8 2

泌尿器用薬として使用される漢方処方製剤の正誤について、正しい組合せはどれか。なお、使用される製剤は「正」、使用されない製剤は「誤」と表記する。

- a 六味丸
- b 猪苓湯
- c 牛車腎気丸
- d 八味地黄丸

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 8 3

婦人薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 女性ホルモン成分の摂取によって吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが考えられるため、母乳を与える女性では女性ホルモン成分の使用を避けるべきである。
- b センキュウ、トウキ、ジオウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- c 疲労時に消耗しがちなビタミンの補給を目的として、ビタミンB₁、ビタミンB₂、ビタミンB₆、ビタミンB₁₂が配合されている場合がある。
- d 滋養強壯作用を目的として、アミノエチルスルホン酸（タウリン）、ニンジンが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 8 4

内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 鼻炎用内服薬と鼻炎用点鼻薬において、同種の作用を有する成分が重複することがあるが、投与経路が違うので、併用しても特に問題はない。
- 2 プソイドエフェドリン塩酸塩は、抗コリン成分であり、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合される。
- 3 ベラドンナ総アルカロイドは、ヒスタミンの働きを抑えることを目的として用いられる。
- 4 クロルフェニラミンマレイン酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。
- 5 シンイは、ウマノスズクサ科のウスバサイシン又はケイリンサイシンの根及び根茎を基原とする生薬で、鎮痛、鎮咳、利尿等の作用を有するとされ、鼻閉への効果を期待して用いられる。

問85

鼻に用いる薬に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を拡張させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、ナファゾリン塩酸塩が配合されている場合がある。
- b ヒスタミンの遊離を抑える成分（抗アレルギー成分）は、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎^{くう}に対しては無効である。
- c 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の適応症には、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎^{くう}に加え、蓄膿症^{のう}などの慢性のものも含まれる。
- d スプレー式鼻炎用点鼻薬は、汚染を防ぐために容器はなるべく鼻に触れないようにするほか、他人と点鼻薬を共有しないようにする必要がある。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問86

眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 通常、ソフトコンタクトレンズは水分を含みにくいので、装着したまま防腐剤を含む点眼薬を点眼しても問題はない。
- b 点眼後は、数秒間、眼瞼^{けん}（まぶた）を開けて、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内^{くう}へ流れ込み、効果的とされる。
- c 点眼の際に容器の先端が眼瞼^{けん}（まぶた）や睫毛^{しょう}（まつげ）に触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因となるため、触れないように注意しながら1滴ずつ正確に点眼する。
- d 1滴の薬液量は、結膜囊^{のう}の容積より小さいため、一度に数滴点眼すると効果的である。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

問 8 7

点眼薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を目的として、プラノプロフェンが配合されている場合がある。
- b ヒスタミンの働きを抑えることにより、目の痒み^{かゆ}を和らげることを目的として、ケトチフェンフマル酸塩が配合されている場合がある。
- c 結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として、ネオスチグミンメチル硫酸塩が配合されている場合がある。
- d 新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を目的として、アスパラギン酸カリウムが配合されている場合がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 8 8

外皮用薬に用いられるステロイド性抗炎症成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 副腎皮質ホルモンと共通する化学構造を持つ主な成分としては、デキサメタゾンやプレドニゾン酢酸エステル等がある。
- b 広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎^{しん}に適している。
- c ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL中に0.025 mg を超えて含有する外皮用薬では、特に長期連用を避ける必要がある。
- d 末梢組織の免疫機能を向上させる作用も示すため、細菌、真菌、ウイルス等による皮膚感染を防止する効果も期待されて用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 8 9

みずむし・たむし用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a みずむし・たむしは、皮膚糸状菌（白癬菌）という細菌類の一種が皮膚に寄生することによって起こる疾患であるため、サルファ剤等の抗菌成分が用いられる。
- b 湿疹とみずむし等の初期症状は類似していることが多く、湿疹に抗真菌作用を有する成分を使用すると、かえって湿疹の悪化を招くことがある。
- c クロトリマゾールは、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

問 9 0

毛髪用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ヒノキチオールは、抗菌、抗炎症などの作用を期待して用いられる。
- b カルプロニウム塩化物は、末梢組織において抗コリン作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- c カシュウは、タデ科のツルドクダミの塊根を基原とする生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
- d エストラジオール安息香酸エステルは、男性ホルモンの一種であり、脱毛抑制効果を期待して用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問9 1

外用の歯痛・歯槽膿漏薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 歯痛薬は、歯の齲蝕（むし歯）が修復されることにより歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品である。
- b フェノールは、殺菌消毒成分として歯痛薬に用いられるが、粘膜刺激を生じることがあるため、歯以外の口腔粘膜や唇に付着しないように注意が必要である。
- c チョウジ油は、抗炎症作用を期待して歯槽膿漏薬に配合されている場合がある。
- d ジブカイン塩酸塩は、齲蝕（むし歯）によって露出した歯髄を^{ずい}通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として歯痛薬に用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	誤

問92

口内炎用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 口腔^{くわう}粘膜の組織修復を促す作用を期待して、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている場合がある。
- b 茵^{いん}藓^{ちん}蒿^{こう}湯は口内炎の内服薬としても使用されるが、胃腸が弱く下痢をしやすい人には不向きとされる。
- c 患部からの細菌感染を防止することを目的として、クロルヘキシジン塩酸塩等の殺菌消毒成分が配合されている場合がある。
- d シコンは、アカネ科のクチナシの果実を基原とする生薬で、抗炎症作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問93

ニコチン及び禁煙補助剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 禁煙補助剤は、噛^かむことにより口腔^{くわう}内でニコチンが放出され、唾液とともに飲み込まれた後、胃粘膜から吸収されて循環血液中に移行する咀^そ嚼^{しゃく}剤と、1日複数回皮膚に貼付することによりニコチンが皮膚を透過して血中に移行するパッチ製剤がある。
- b 3ヶ月以内に心筋梗塞の発作を起こした人、重い狭心症や不整脈と診断された人では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- c ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示すため、アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰^{がい たん}薬、鼻炎^じ用薬等）との併用により、その作用を増強させるおそれがある。
- d 禁煙に伴うニコチン離脱症状は、通常、禁煙開始から1～2ヶ月の間に起きることが多い。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問94

保健薬に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 滋養強壯に用いられる主な漢方処方製剤には、十全大補湯じゅうぜんたいほとうや補中益気湯ほちゅうえっきとうがある。
- b 生薬成分であるゴオウ、ゴミシ、ロクジョウの配合については、医薬品においてのみ認められている。
- c 医薬部外品の保健薬の効能・効果の範囲には、滋養強壯のほか、神経痛、筋肉痛、関節痛、しみ・そばかす等のような特定部位の症状の改善が含まれる。
- d 医薬部外品の保健薬の配合成分は、人体に対する作用が緩和なものに限られるが、配合されるビタミン成分の1日最大量は規定されていない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問95

次の表は、ある一般用医薬品のビタミン主薬製剤に含まれている成分の一覧である。

1 カプセル中		
ビタミンA油	4 m g	(ビタミンAとして4 0 0 0 国際単位)
コレカルシフェロール	5 μ g	(ビタミンDとして2 0 0 国際単位)
酢酸d- α -トコフェロール	1 0 m g	

このビタミン主薬製剤及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a この医薬品は、成人（15歳以上）では1日2カプセルまで服用してよい。
- b 妊娠3ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる人又は妊娠を希望する人が服用する場合は、服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談することとされている。
- c ビタミンDの過剰症として高カルシウム血症が知られており、初期症状として吐きけ、おう嘔吐等がある。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

問96

次の漢方処方製剤の適用される証・症状と重篤な副作用の記述について、正しいものの組合せはどれか。

	漢方処方製剤	適用される証・症状	重篤な副作用
a	おうれんげどくとう 黄連解毒湯	体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満	肝機能障害、 間質性肺炎、 偽アルドステロン症
b	ぼういおうぎとう 防己黄耆湯	体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるものにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、赤鼻（酒さ）	肝機能障害、 間質性肺炎、 腸間膜静脈硬化症
c	ぼうふうつうしょうさん 防風通聖散	体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなもの的高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、肥満症	肝機能障害、 間質性肺炎、 偽アルドステロン症
d	だいさいこうとう 大柴胡湯	体力が充実して脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症	肝機能障害、 間質性肺炎

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問97

一般用医薬品に用いられる生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カッコンは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮^{けい}痙等の作用を期待して用いられる。
- b サイコは、キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を期待して用いられる。
- c ボウフウは、セリ科のボウフウの根及び根茎を基原とする生薬で、発汗、解熱、鎮痛、鎮^{けい}痙等の作用を期待して用いられる。
- d ブクリョウは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |

問98

消毒薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a クレゾール石^{けん}鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類だけでなくウイルスに対しても広い殺菌消毒作用を示す。
- b イソプロパノールは、アルコール分が微生物のタンパク質を変性させ、それらの作用を消失させることから、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。
- c 次亜塩素酸ナトリウムやサラシ粉は、強い酸化力により一般細菌類、真菌類に対して殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- d ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム、トリクロロイソシアヌル酸等の有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 9 9

衛生害虫及びその防除に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ハエの防除の基本は、ウジの防除であり、ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
- b ゴキブリの燻蒸^{くん}処理により、成虫とともに卵にも医薬品成分が浸透し、殺虫することが可能である。
- c トコジラミは、シラミの一種でなくカメムシ目に属する昆虫で、ナンキンムシとも呼ばれ、床や壁の隙間、壁紙の裏、畳の敷き合わせ目、ベッド等に潜伏する。
- d 屋内塵性ダニ^{じん}は、完全に駆除することは困難であるため、増殖させないということを基本に防除が行われることが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問100

尿糖又は尿タンパク検査薬を用いた検査に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 尿糖検査で尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。
- b 尿タンパクの検査で、尿中のタンパク値に異常を生じる要因は、腎臓機能障害によるものとして腎炎やネフローゼ、尿路に異常が生じたことによるものとして尿路感染症、尿路結石、膀胱炎^{ぼうこう}等がある。
- c 尿糖又は尿タンパクを検出する部分を長い間、尿に浸すほど、正確な検査結果が得られる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

医薬品の適正使用と安全対策

問 101

一般用医薬品の添付文書の副作用の記載に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

副作用については、まず一般的な副作用について (a) に症状が記載され、そのあとに続けて、(b) 発生する重篤な副作用について (c) に症状が記載されている。

	a	b	c
1	副作用名ごと	連用により	発現部位別
2	副作用名ごと	高頻度に	発現部位別
3	副作用名ごと	まれに	発現部位別
4	発現部位別	連用により	副作用名ごと
5	発現部位別	まれに	副作用名ごと

問 102

一般用医薬品の添付文書の記載内容に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 最新の情報を提供する必要があるため、毎月 1 回、定期的に改訂されている。
- b 薬剤師や登録販売者向けの専門的な表現で記載されている。
- c 添付文書の販売名の上部に、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要なときに読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

問103

次の医薬品成分のうち、それを含有することにより内服用の一般用医薬品の添付文書等において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「本剤又は本剤の成分、鶏卵によりアレルギー症状を起こしたことがある人」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 マルツエキス
- 2 タンニン酸アルブミン
- 3 リゾチーム塩酸塩
- 4 スクラルファート
- 5 ブロメライン

問104

次の医薬品成分等のうち、目のかすみや異常なまぶしさを生じることがあるため、それを含有することにより内服用の一般用医薬品の添付文書等において、「してはいけないこと」の項目中に、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載することとされている成分等はどれか。

- 1 合成ヒドロタルサイト
- 2 無水カフェイン
- 3 ピレンゼピン塩酸塩水和物
- 4 芍薬甘草湯しゃくやくかんそうとう
- 5 アルジオキサ

問105

プソイドエフェドリン塩酸塩を含有する内服用の一般用医薬品の添付文書等における「次の人は使用（服用）しないこと」に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、心臓病の診断を受けた人は服用しないこととされている。
- b 喘息発作を誘発するおそれがあるため、ぜんそくを起こしたことがある人は服用しないこととされている。
- c 肝臓でグリコーゲン^{ゼン}を分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病を悪化させるおそれがあるため、糖尿病の診断を受けた人は服用しないこととされている。
- d 尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人は服用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問106

次の医薬品成分のうち、生じた血栓が分解されにくくなるため、それを含有することにより内服用の一般用医薬品の添付文書等において、「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」として「血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等）、血栓症を起こすおそれのある人」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 次硝酸ビスマス
- 2 トラネキサム酸
- 3 エテンザミド
- 4 グリチルリチン酸二カリウム
- 5 パパベリン塩酸塩

問107

次の医薬品の販売等に従事する登録販売者と購入者の会話のうち、購入者からの相談に対する登録販売者の対応の正誤について、正しい組合せはどれか。

a	購入者	「子供が乗物酔いで困っています。4歳の子供でも服用できる乗物酔い防止薬はありますか。」
	登録販売者	「はい。アミノ安息香酸エチルが配合された乗物酔い防止薬であれば服用できます。」

b	購入者	「10歳の子供が服用できる解熱鎮痛薬を探しています。服用を避けるべき成分があれば教えてください。」
	登録販売者	「一般用医薬品の解熱鎮痛薬であれば、特に服用を避けるべき成分はありません。」

c	購入者	「現在授乳中ですが、センナが配合されたこの内服薬を服用してもよいですか。」
	登録販売者	「センナを配合した内服薬であれば、授乳中の方でも安心して服用できます。」

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 |

問108

医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a シロップ剤は変質しやすいため、開封後は冷凍庫内で凍結して保管されることが望ましい。
- b 移し替える容器が湿っていなければ、医薬品をその容器に移し替えても問題はない。
- c 小児に使用される医薬品を除き、医薬品は小児の手の届かないところに保管される必要がある。

a b c

- 1 誤 正 誤
- 2 正 誤 誤
- 3 正 正 正
- 4 誤 誤 誤
- 5 誤 正 正

問109

緊急安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 厚生労働省が作成し、医薬関係者に直接配布される。
- b イエローレターとも呼ばれる。
- c 一般用医薬品に関する緊急安全性情報が発出されたことがある。

a b c

- 1 正 正 正
- 2 正 正 誤
- 3 正 誤 誤
- 4 誤 正 正
- 5 誤 誤 正

問 1 1 0

独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「使用上の注意」の改訂情報が掲載されている。
- b 医薬品等の製品回収に関する情報が掲載されている。
- c 医薬品・医療機器の安全性に関する特に重要な情報が発出されたときに、当該ホームページへ掲載するとともに、その情報を電子メールによりタイムリーに配信する医薬品医療機器情報配信サービスが行われている。
- d 当該ホームページを閲覧できるのは、医薬関係者に限定されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問 1 1 1

医薬品医療機器等法第 6 8 条の 1 0 第 2 項の規定に基づき、登録販売者等に義務づけられている副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても、報告の対象となり得る。
- b 報告すべき医薬品の副作用は、使用上の注意に記載されているものだけとは限らない。
- c 医薬品の過量使用や誤用によるものと思われる健康被害については、報告の対象とはならない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	誤

問 1 1 2

医薬品医療機器等法第 6 8 条の 1 0 第 2 項の規定に基づき、登録販売者等に義務づけられている副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 報告書の送付は、郵送、ファクシミリ又は電子メールにより行うことができる。
- b 報告書は、勤務する店舗の所在地の都道府県知事（その店舗の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）に送付することとされている。
- c 報告期限は特に定められていないが、報告の必要性を認めた場合においては、適宜速やかに報告書を送付することとされている。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 |

問 1 1 3

医薬品の副作用情報等の評価及び措置に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

医薬品等安全性情報報告制度等により集められた副作用情報については、(a) において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、(b) は、(c) の意見を聴いて、使用上の注意の改訂の指示等を通じた注意喚起のための情報提供や、効能・効果や用法・用量の一部変更、調査・実験の実施の指示、製造・販売の中止、製品の回収等の安全対策上必要な行政措置を講じている。

- | | a | b | c |
|---|-------------------|--------|--------------|
| 1 | 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 | 厚生労働大臣 | 薬事・食品衛生審議会 |
| 2 | 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 | 都道府県知事 | 薬事・食品衛生審議会 |
| 3 | 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 | 厚生労働大臣 | 国立医薬品食品衛生研究所 |
| 4 | 独立行政法人国民生活センター | 都道府県知事 | 薬事・食品衛生審議会 |
| 5 | 独立行政法人国民生活センター | 厚生労働大臣 | 国立医薬品食品衛生研究所 |

問 1 1 4

医薬品医療機器等法第 6 8 条の 1 0 第 1 項の規定に基づき、医薬品の製造販売業者が、その製造販売した医薬品について行う副作用等の報告において、15 日以内に厚生労働大臣に報告することとされている次の事項のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できないもので、死亡に至った事例
- b 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、発生傾向の変化が保健衛生上の危害の発生又は拡大のおそれがあるもので、重篤（死亡を含む）な事例
- c 副作用症例・感染症の発生傾向が著しく変化したことを示す研究報告
- d 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できるもので、非重篤な事例

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 1 1 5

医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による被害者の迅速な救済を図るため、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度として運営が開始された。
- b 診察した医師が給付請求を行うことになっている。
- c 救済給付業務に必要な費用は、国庫補助により全額賄われている。
- d 救済給付を受けようとする場合の請求先機関は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

問 1 1 6

医薬品副作用被害救済制度による被害者等への救済給付の種類のうち、請求期限が定められていないものはどれか。

- 1 医療費
- 2 医療手当
- 3 遺族年金
- 4 障害児養育年金
- 5 葬祭料

問 1 1 7

医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品の殺虫剤、殺鼠^そ剤による健康被害については、救済制度の対象とならない。
- b 医療機関での治療を要さずに寛解したような軽度の健康被害については、救済給付の対象とならない。
- c 個人輸入により入手された無承認無許可医薬品の使用による健康被害については、救済制度の対象となる。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 |

問 1 1 8

「医薬品PLセンター」に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 平成7年7月の製造物責任法（PL法）の施行と同時に開設され、消費者が製造販売元の企業と交渉するに当たって、裁判によらずに迅速な解決に導くことを目的としている。
- b 公平・中立な立場で申立ての相談を受け付けている。
- c 医薬品だけでなく、医療機器に関する苦情も受け付けている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

問 1 1 9

一般用医薬品の安全対策に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

(a)成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な(b)で、1959年から1965年までの間に計38名の死亡例が発生した。

アンプル剤は、他の剤型（錠剤、散剤等）に比べて(c)が速く、血中濃度が急速に高値に達するため、通常用量でも副作用を生じやすいことが確認されたことから、1965年、厚生省（当時）より関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収が要請された。

	a	b	c
1	解熱鎮痛	副作用（ショック）	吸収
2	解熱鎮痛	副作用（ショック）	代謝
3	鎮咳 ^{がい}	副作用（間質性肺炎）	吸収
4	鎮咳 ^{がい}	副作用（ショック）	代謝
5	鎮咳 ^{がい}	副作用（間質性肺炎）	代謝

問 1 2 0

医薬品の適正使用のための啓発活動に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 登録販売者は、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用のための啓発活動に積極的に参加、協力することが期待されている。
- b 保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。
- c 医薬品の適正使用の重要性等に関して、小中学生のうちから啓発を行うことが重要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	誤